

2026 年 10 月社長会見



2026 年 10 月 16 日

1. 営業・輸送概況
2. 新たな多機能鉄道重機 2 機種を営業線へ導入
3. 「のぞみ」・「みずほ」号の指定席特急料金
及びグリーン料金の見直し等について

詳細

1. 営業・輸送概況

【運輸取扱収入（速報値）】

収入につきましては、9月は前年比で 104.6%、10 月は 14 日までに 102.2%でございます。

運輸取扱収入（速報値）

	前年同环比			
	収入計	近距離券	中長距離券	定期券
9月	104.6%	100.3%	107.8%	100.7%
10月 (10/1～14)	102.2%	96.6%	102.9%	104.9%
2026年度上半期 (4～9月) 累計	103.2%	101.4%	104.3%	101.7%

※実績は直営の速報値。駅などでの取扱高(消費税を含む)を示すものであり、旅行会社での発売分などを除きます。

【新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）】

次に、ご利用状況ですが、山陽新幹線は、9月が前年比で 105%、10 月が 14 日までに 98%となっております。近畿圏は、9月が 98%、10 月が 14 日までに 98%となっております。なお、上半期の状況は、それぞれ記載のとおりでございます。

新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）

	前年同环比			
	山陽新幹線	北陸新幹線	在来線特急	近畿圏 自動改札通過人員
9月	105%	115%	102%	98%
10月 (10/1～14)	98%	110%	95%	98%
2026年度上半期 (4～9月) 累計	103%	109%	98%	99%

※実績は速報値。

昨年の大阪・関西万博の反動はございますが、9月には5連休、10 月にも前半には3連休がございまして、多くのお客様にご利用いただきました。

引き続き皆様に安心して、ご利用いただけますよう、安全・安定輸送に努力してまいります。

2. 新たな多機能鉄道重機 2 機種を営業線へ導入 ～鉄道現場の安全性・生産性向上と多様な人財が活躍できる環境づくり～

続きまして、営業線で使用を開始する新たな多機能鉄道重機 2 機種についてご説明します。

新たな多機能鉄道重機 2 機種を営業線へ導入



当社の戦略／これまでの開発と活用

中期経営計画2030で掲げる 『技術による革新』

オペレーションの進化・メンテナンス構造改革



▲ 鉄道設備をマップ上で検索できる「デジタルレールマップ」を中心に、線路保守の効率化を支援するスマート動揺判定アプリ「レールモニター」などインフラメンテナンスにかかわるさまざまなプロダクトを活用し、業務変革を進める。

安全性向上および生産性向上を目的に 2024年度から鉄道設備メンテナンスに多機能鉄道重機を導入

□ 3社による共創



2024年7月の実作業への導入以降、ノウハウを蓄積

新たな多機能鉄道重機の開発

既存タイプを改良し量産化

ご承知のとおり、近年は人口減少によりまして、鉄道に限らず働き手が減少傾向にございます。当社においても、安全性向上を最優先に、技術革新を進め、オペレーションの進化やメンテナンスの構造改革に取り組んでおります。

多機能鉄道重機「ZIZAI」につきましては、鉄道設備のメンテナンスにおける安全性と生産性の向上を目指して開発をいたしております。人機一体、日本信号、当社の3社で共同開発を進め、2024年7月に営業線への導入をいたしております。

また、並行して新たな多機能鉄道重機の開発や既存タイプの改良も進めてまいりました。

このたび、重量物を取り扱う作業を支援する「重作業用単腕型ロボット」、そして、これまでに導入しました人型ロボットを進化させた「量産型人型ロボット」を導入いたします。2026 年 10 月から鉄道設備のメンテナンスで順次使用を開始する予定でございます。

新たな多機能鉄道重機 2 機種を営業線へ導入



新たに導入する 2 機種の多機能鉄道重機

重作業用単腕型ロボット

◆人と協働し、重量物作業を支援



架線金具取替作業イメージ

概要

- 高所作業車のデッキ上に単腕型ロボットを搭載
- 重量物の吊上げ下ろし・保持・位置決めをアシスト
 - ・最大120kgを把持可能
- 架線支持アームで架線類を仮支持可能
- 材料の吊上げ下ろしと把持機構を一体化
- 列車に電気を送る架線設備のメンテナンス作業に活用

架線金具の取替など重作業で活躍

量産型人型ロボット

◆既導入の人型ロボットを軽量・小型化



伐採作業イメージ

概要

- 既導入の人型ロボットをベースに各部を改良
 - ・小型・軽量化（ロボット重量600kg⇒300kg）
 - ・ブーム長を延長（12m⇒15m）
 - ・ロボットの剛性強化（樹脂製⇒アルミ製）
 - ・制御機器の内製化及び配線の削減
- 線路沿線の支障木伐採に活用

より高所での作業が可能になり、操作性も向上

まず、左側にございます重作業用単腕型ロボットについてご紹介いたします。

高所作業車のデッキの上にロボットを搭載し、重量物の作業を支援します。最大 120 キログラムの重量物を持ち上げることができ、架線を支えるアームも備えております。材料の吊り上げ・吊り下げと、物を掴む機構を一体化して、構造の簡素化を図っています。

これまで作業員の身体的負担が大きかった重量物の保持や移動を単腕型ロボットが支援することで、安全性と作業性の向上を図ります。

次に、右側にお示ししております量産型人型ロボットについてでございます。

この機種は、既に導入している人型ロボットをもとに、小型・軽量化や、ブームの延長といった改良を行いました。ブームを延長したことにより、既存タイプに比べ、より高所での作業が可能となります。

こちらは、2026 年 11 月から使用を開始する予定で、線路沿線の支障木の伐採を対象に活用する予定でございます。現場の社員にとってより取り扱いしやすい機種を導入することによりまして、作業効率を高めてまいります。

今回の 2 機種を導入を通じまして、鉄道現場における安全性・生産性の向上を図り、多様な人財が活躍できる環境の創出、また支障木の伐採をさらに推進することで安全、安定輸送の実現につなげていきたいと考えています。

新たな多機能鉄道重機 2 機種を営業線へ導入



今回の導入の効果

鉄道現場の安全性・生産性向上

- ◆ 高所作業の機械化による**労働災害（墜落・感電）防止**
- ◆ 改良されたロボットの導入による**作業性の向上**
※ 作業に要する人手の約 3 割減少を目指す

《作業性の向上》

	従来	導入後
可動ブラケット 取替作業	5人	3~4人
伐採作業	4人	3人

多様な人財が活躍できる環境の創出

- ◆ ロボットと協働することによる作業員の負担軽減
※ 性別や年齢によらず作業に従事可能

安全・安定輸送の実現

- ◆ 支障木伐採の更なる推進

今後の方向性

<鉄道分野> 対象工事の拡大

重作業用単腕型ロボット

適用できる作業の拡大を検討

量産型人型ロボット

ロボットの先端に付ける専用工具の種類を拡充

鉄道で培った技術・ノウハウを生かし

インフラメンテナンスへの貢献を目指す

今後は、鉄道現場で実際に使用しながら操作性や導入効果を確認し、対象工事の拡大を検討してまいります。

将来的には、鉄道で培った技術、ノウハウを生かし、鉄道以外のインフラ分野でのメンテナンスにおいても実用化を目指してまいります。

3. 「のぞみ」・「みずほ」号の指定席特急料金及びグリーン料金の見直し等について

続きまして、「のぞみ」・「みずほ」号の指定席特急料金、及びグリーン料金の見直しについてご説明いたします。

まずは、「のぞみ」・「みずほ」号の指定席特急料金の改定についてでございます。

「のぞみ」・「みずほ」号の指定席特急料金及びグリーン料金の見直し等について



◆時代とともにサービス向上を図ってきた新幹線「のぞみ」・「みずほ」

運転本数の大幅な増加による利便性向上をはじめとするサービス向上を実施

車両 ※（）は山陽新幹線での運用開始年	300系（1993年）	500系（1997年）	N700S（2020年）
			
最高速度	270km/h	300km/h	300km/h
新大阪～博多間の最速到達時分	2時間32分	2時間17分	2時間21分
1日あたりの列車本数	のぞみ32本 (1993年3月時点)	のぞみ100本 (2007年7月時点)	のぞみ106本・みずほ16本 (2026年3月時点)

■「のぞみ」・「みずほ」号の指定席特急料金の改定について（2027年7月1日購入分より改定）

昨今のインフレに伴い安全性やサービスを維持・向上させるためのコストが上昇

⇒今後もサービスを時代に合ったものとし続けるため、「のぞみ」・「みずほ」号をご利用時の指定席特急料金を改定

(例)	区間	現行	改定後
	新大阪⇄広島	5,230円	5,490円
	新大阪⇄博多	6,230円	6,510円

※通常期におよそ1名が片道を普通車でご利用の場合

山陽新幹線では、1993年に「のぞみ」号の運転を開始いたしました。当時は、新大阪・博多間を、最速2時間32分で結び、1日あたり32本を運転していました。

その後、新型車両の導入や地上設備の更新など新たな技術を導入することにより、所要時間の短縮や運転本数の大幅な増加など、ダイヤの利便性向上をはじめとするサービスの向上に努めてまいりました。

一方、昨今のインフレに伴い、安全性やサービスを維持・向上するためのコストが上昇しております。今後も新幹線のサービスを時代に合ったものとし続けるため、2027年7月1日のご購入分より、「のぞみ」・「みずほ」号の指定席特急料金を改定させていただきます。これは国から認可を頂戴しております上限額まで引き上げさせていただくものでございます。今回の料金改定を活かし、今後、さらなる安全性の向上やサービスの向上を進めてまいります。

主要区間の価格の現改比較については資料の表をご覧ください。改定幅は、新大阪～広島で260円、新大阪～博多で280円となります。

続いて、グリーン料金の改定についてでございます。

「のぞみ」・「みずほ」号の指定席特急料金及びグリーン料金の見直し等について



■ グリーン料金の改定について（2027年12月15日乗車分より改定）

※画像はイメージです
※画像はJR東海提供

これまでグリーン料金を据え置きながら様々なサービス向上を継続
⇒今後も、より快適な移動空間の実現に向けグリーン料金を改定

(例)	区間	現行	改定後
	新大阪⇄広島	4,190円	6,700円
	新大阪⇄博多	6,600円	10,400円

※通常期にて「のぞみ」「みずほ」を大人片道1名でご利用の場合

【サービス向上メニュー（一例）】

車内での過ごし方や嗜好に合わせた2タイプの座席の整備

多機能アームレスト座席
(8・9号車)



・ドリンクホルダー、スマホホルダーを装置

パーティション座席
(10号車)



・隣席のお客様の視線が
気にならないパーティションを設置

各座席共通



・リクライニング可能角度を調整
(123°⇒116°)
・フットレストを跳ね上げ式に変更



・肘掛収納式大型テーブルを導入

無料Wi-Fiサービスの拡充

- ・Supreme Classで採用している5G対応透明ガラスアンテナを搭載しより安定した通信を実現
- ・従来の約2倍の通信容量等を備えたWi-Fiサービスを9・10号車にも導入 ※8号車は導入済



Supreme Class・グリーン車ご利用の
お客様専用の待合室の新設

小倉駅、博多駅：2027年12月15日（水）
広島駅：2028年度以降
※サービス開始時期、ご利用条件などの詳細は別途お知らせ

山陽新幹線のグリーン車の料金については、当社発足以降、消費税率の改定に伴うものを除きますと、39年間据え置いたまま、新型車両投入による車両設備や乗り心地の改善など、サービスの向上を重ねてまいりました。

こうした中、お客様の多様なニーズにお応えし、より快適で上質なサービスを提供し続けるため、2027年12月15日ご乗車分より、グリーン料金を改定させていただきます。引き続き、車内での過ごし方や嗜好に合わせた座席の整備や乗り心地の改善を行ってまいります。その他にも、新たに「Supreme Class（スプリーム クラス）」やグリーン車ご利用のお客様専用の駅の待合室を一部の主要駅に整備をいたしてまいります。

主要区間の価格の現改比較については資料の表をご覧ください。改定幅は、新大阪～広島で2,510円、新大阪～博多で3,800円となります。

最後に、Supreme Class（スプリーム クラス）の発売額についてでございます。

「のぞみ」・「みずほ」号の指定席特急料金及びグリーン料金の見直し等について



※画像はイメージです
※画像はJR東海提供

■ Supreme Classの発売額について

- Supreme Class Cabin（個室タイプ）の発売額の改定
各料金の改定と合わせ、Supreme Class Cabin（7号車・10号車）の発売額を改定 ※改定時期は各料金改定と同日

区 間	Supreme Class Cabinの種類	乗車日		
		2027年12月14日（火）まで		2027年12月15日（水）以降
		購入日		
		2027年6月30日 まで	2027年7月1日 以降	
東京⇄岡山	7号車（1～2名用）	74,440円	75,200円（＋760円）	79,000円（＋4,560円）
	10号車（1名用）	51,840円	52,600円（＋760円）	56,400円（＋4,560円）
東京⇄広島	7号車（1～2名用）	86,620円	87,480円（＋860円）	91,990円（＋5,370円）
	10号車（1名用）	60,020円	60,880円（＋860円）	65,390円（＋5,370円）
新大阪⇄博多	7号車（1～2名用）	72,690円	72,970円（＋280円）	76,770円（＋4,080円）
	10号車（1名用）	50,090円	50,370円（＋280円）	54,170円（＋4,080円）

- Supreme Class Seat（半個室タイプ）の発売額について
Supreme Class Seatは2027年12月15日以降にサービス開始（予定）
発売額については、Supreme Class Cabin（10号車）と同額とします

※通常期にて「のぞみ」をおとな・片道1名でスマートEXをご利用の場合

区間	EX予約サービス	スマートEX
東京⇄岡山	56,050円	56,400円
東京⇄広島	65,010円	65,390円
新大阪⇄博多	53,990円	54,170円

※通常期にて「のぞみ」をおとな・片道1名でご利用の場合



Supreme Class Seat（10号車）

今ご説明しました、「のぞみ」号の指定席特急料金とグリーン料金の改定と合わせて、「Supreme Class Cabin（スプリーム クラス キャビン）」の発売額を改定いたします。

また、半個室タイプの座席「Supreme Class Seat（スプリーム クラス シート）」について、営業開始を2027年中とお知らせしておりましたが、2027年12月15日以降を予定しております。

価格につきましては、10号車にあります「Supreme Class Cabin（スプリーム クラス キャビン）」1名利用のタイプと同額といたします。「Supreme Class Seat（スプリーム クラス シート）」と10号車の「Supreme Class Cabin（スプリーム クラス キャビン）」を同じ価格とさせていただきますので、あわせてお知らせいたします。